

まいこの大火



自衛隊秋田駐とん部隊に災害派遣を要請した秋田部隊は仙台で行なわれていた秋季演習であったため、秋田自衛隊ではとてあえず弘前同日夜の11時、弘前部隊から長山1等陸来市し、●救援対策について打合せした。日の早朝、弘前部隊1行140名が現場に到着復興活動を開始した。

自衛隊(140名)は県知事の要請に基づき2時仙台を出発。不眠不休のまま本市に直行4時30分に現場に到着して弘前部隊を指もに、う回道路の建設など災害地の復旧に全ういただいた。

自衛隊の活躍はめざましいものがあった。里、そしてう回道路の建設など、罹災者もたち市民も自衛隊の活躍には深く感謝したい長時とその復興に自衛隊にもおとらぬ活躍ぶっていたいただいた警察署をはじめ 電報電話局、民間の救援隊の皆さんにも深く感謝申しあげ

「あなたは火事の恐ろしさを知らない」

など各地からぞくぞく>>>
新聞等で報道されると同時に、全国各地から物資や義援金が対策本部に殺到した。
救援物資を受付した市民体育館には大きなが築かれ、罹災者の皆さんに配分しても、ぎと運びこまれてきた。本当にありがたいこ

さしのべていただいた方のご芳名は、次号の版して感謝の意を表したいと思っております、さり紙面を通じて、とてあえずお礼を申しあげ

て復興、●たもや火災→復興と、この悪盾の大火で終止符をうって欲しいものです。こも、市民ひとりひとりが「火」に対する関楽くもって、5度このような大火を引き起さこの際ちかいかあおうではありませんか。—

〈燃えないまちをつくるため〉

—御成町二丁目地域に都市計画—

市では12日の大火で焼失した区域にその周辺を含めた地域に火災復興都市計画土地区画整理事業を施行し、不燃都市を建設するため、県や建設省と協議をしその計画案の作成に入った。計画立案に際しては、13日と18日に急きよ開かれた市議会全員協議会で同意を得ながら去る10月14日大綱を建設水道委員会に説明し、15日は市立第3中学校で被害者に対する説明会をもち協力を求めた。集った被害者たちは基本的には区画整理事業に異論がなかったで、夕方からは現場に杭打ち作業がはじられ、かつよい第1歩をふみだしたのである。

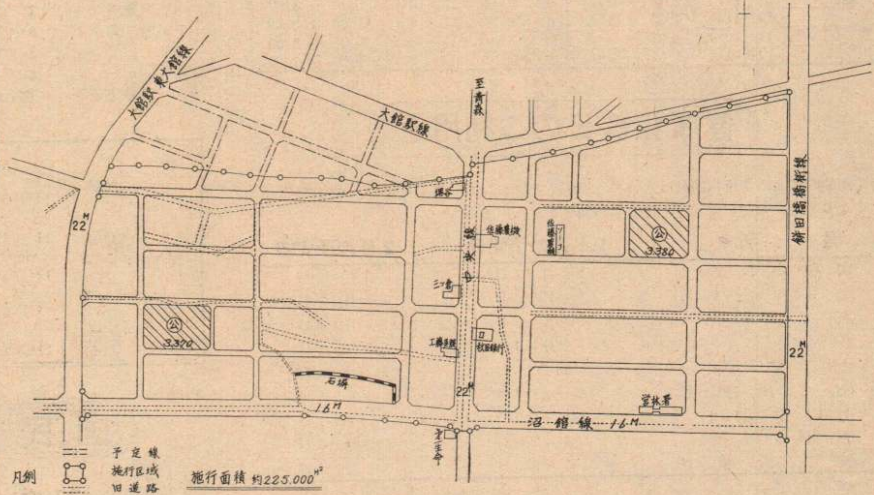
今回の都市計画土地区画整理事業は、桂城、駅前、大館、長里のいずれも火災復興土地区画整理事業について5番目であり、これが施行されると大館駅前から一丁目

線につづいて、街の中央に市22mの国道7号線がまっすぐに通る、それを基幹とし8m、6m、4mの道路を基盤目状に、たて、よこにめぐらすほか、3,380平方メートルの緑地帯が2ヶ処に造成される。

建設課ではこの基本に沿って事業計画の作成をなし、2週間経覧に供したあと県知事に認可の申請をすることになります。

ついでこの認可のあと直ちに事業に着手することになります。従って目下被災者には仮店舗と仮住宅のいずれも30平方メートルに制限し、道路予定地外に建築をしてもらうよう協力を願い仮換地の指定も来年3月末までに終りたい考えである。

〈計画図〉



電力会社社員



電報電話局員



←罹災者を見舞う知事と市長

←市職員による実地調査